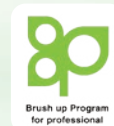


「YCU医療経営・政策プログラム」 令和7年度 事業報告書

- 文部科学省
「課題解決型高度医療
人材養成プログラム」
採択事業
(2017年度～2021年度)
- 厚生労働大臣指定
専門実践教育訓練講座
- 文部科学省
職業実践力育成
プログラム認定



都市型
地域医療を
先導する



病院変革
人材育成



伝統と革新の、その先へ
1928 - 2028

横浜市立大学

横浜市立大学大学院医学研究科・国際マネジメント研究科
附属病院・附属市民総合医療センター

横浜市立大学「YCU医療経営・政策プログラム」事業概要

学長ごあいさつ



横浜市立大学学長
石川 義弘

横浜市立大学は、医学部および附属病院、附属市民総合医療センターという二つの基幹病院を有し、先進的医療の提供のみならず、地域医療への貢献を通じて地域の安定的な医療体制の確保にも大きな役割を果たしてきました。2017年度には、本学の源流である商学と医学の融合による医経連携の取り組みが評価され、文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」に採択されました。これを受け、2018年度に社会人大学院履修証明コースとして「YCU病院経営プログラム」(現:医療経営・政策プログラム)を開設し、今年度も多様な背景を持つ履修生の皆様を迎えることができました。

本プログラムでは、ケーススタディや特別研究を中心とした実践的な教育を展開し、医学研究科および国際マネジメント研究科の教員による理論と実務を往還する講義を提供しています。修生は、学びの成果を各所属機関での経営改善に活かすのみならず、シンポジウムや公開授業を通じて人的ネットワークを拡大し、地域医療への貢献につながる活動を広げています。文部科学省補助金は2021年度で終了しましたが、本プログラムは職業実践力育成プログラム(BP)および厚生労働省の専門実践教育訓練給付制度の対象となり、社会人が学びやすい環境を引き続き提供しています。

近年、少子高齢化の進展、医師の働き方改革、物価上昇など、医療機関を取り巻く経営環境は一層厳しさを増しています。地域医療の持続可能性を確保するためには、現場の視点とマネジメントの視点を併せ持つ高度な人材の育成が不可欠です。

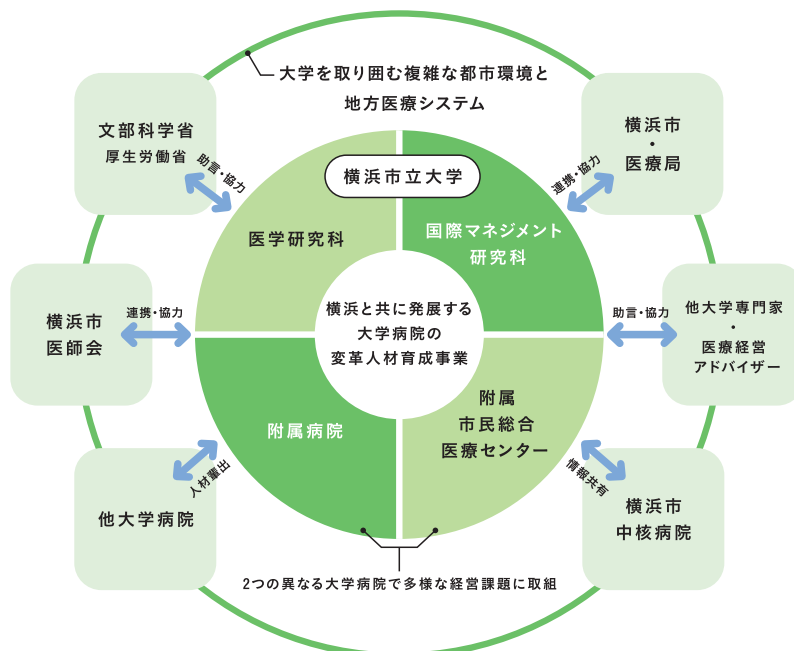
こうした中、来年度(2026年度)からは、国際マネジメント研究科の教員を中心とした新たな運営体制に移行し、より高度なマネジメント教育と医療政策研究の融合を図る体制を整備いたしました。地域医療の課題を深く理解し、その解決に向けて主体的に取り組む人材を育てるための学びをさらに強化してまいります。

次世代の医療経営を担う人材育成に向け、横浜市医療局、横浜市医師会、病院協会をはじめとする地域の関係機関と連携しつつ、本学として本プログラムを一層力強く推進してまいります。

事業概要

都市型地域医療を先導する、病院変革人材を育成するために

横浜市立大学内体制図



事業の実施体制図



事業責任者ごあいさつ



横浜市立大学附属病院
前病院長
医学部麻酔科学主任教授
後藤 隆久

「YCU医療経営・政策プログラム」も今年度で第8期生を送り出すことが出来ました。コロナ禍は終息したものの病院経営はますます厳しさを増しています。高齢化に加え少子化は予想をはるかに上回るスピードで進み、人手不足も顕在化しています。こんな中、国民の安全・安心な生活の基盤となる医療・介護を守るべく、今年も21名の受講生が1年にわたる履修を修了しました。

本プログラムは、横浜市立大学大学院の医学研究科と国際マネジメント研究科が共同で運営し、講義、研究会、シンポジウム、ケースディスカッション、特別研究など多彩な教育機会を用いて、医療・介護・政策の課題を見つけ解決する能力を養うことを目指しています。

本事業報告書は令和7年度の私たちの活動内容を紹介しています。このプログラムがますますよいものとなりますよう、皆様のご意見やご助言をいただければ幸いです。

プログラム実績

履修生受入実績

年度	募集数	履修生数
平成30年度	10名	15名
平成31(令和1)年度	10名	15名
令和2年度	12名	18名
令和3年度	13名	25名
令和4年度	25名	25名
令和5年度	25名	26名
令和6年度	25名	21名
令和7年度	25名	21名



開催シンポジウム、公開授業

年度	内容	参加者
平成29年度	キックオフシンポジウム 「大学病院と地域の病院・診療所との連携と機能分担都市における医療の課題と将来の方向」	109名
平成30年度	公開シンポジウム 「更なる効率化と質保証に対処していくために！ －医療ICTの機能拡充と活用－」	115名
平成31(令和1)年度	公開シンポジウム 「修了生による地域医療・病院経営改善に向けた提言」	50名
令和2年度	①公開授業 「横浜市大附属市民総合医療センターの経営改革」 ②公開シンポジウム (1)「働き方改革と医療政策」 (2)「COVID-19パンデミックの中で 病院と地域医療をどう経営するか？」	①44名 ②(1)91名 (2)220名
令和3年度	①公開授業 「ポストコロナの横浜大学メディカルセンター」 ②公開シンポジウム 「ポストコロナの医療経営」	①111名 ②128名
令和4年度	公開シンポジウム 「コロナ対策と今後の地域医療連携のあり方」	100名
令和5年度	公開シンポジウム 「医療とまちづくり」	91名
令和6年度	公開シンポジウム 「医療の課題をエコノミクスで解決する」	52名
令和7年度	公開シンポジウム 「医療・ヘルスケア事業の課題と医療者との協働」	52名

プログラム概要

「地域医療・ヘルスケアを先導する変革人材育成」

医療を取り巻く環境の変化と課題の拡大に合わせて医療機関にも変化が求められています。またヘルスケアの発展に向けて事業者と医療者が協働しながら変革を主導することが肝要です。このような変革を見据え、学術的な基盤のある医療政策を策定、実施していくことが不可欠です。本プログラムでは、こうした変化・変革を主導する人材育成を目的としています。

※令和8年度よりカリキュラムと出願資格を一部改訂しました。

プログラムの特長と出願資格

特長

1. 働きながら学習できるように、**週末の開講や遠隔(オンライン)開講**の体制を整えています。
2. 病院経営に精通した講師により、医療や企業に関わるケースを使った**ケーススタディ**を行い、実践的な知識の獲得を目指します。
3. 経営学・経済学の知見から日本の医療政策の本質的な課題を捉え、個々の医療機関のみならず広く社会全体に望ましい医療政策を考える**学術的基盤の獲得**を目指します。
4. 履修者が現場で感じている問題を分析・研究する**特別研究**を行います。医療経営に精通した講師が伴走しながら研究活動を進めることができます。
5. 経営学・経済学、統計学、医学、看護学等を専門とする大学教員による講義を提供します。
6. **100名を超える修了生のネットワーク**があり、修了後も学習や交流の機会があります。

出願資格

これまでに医療・介護・福祉に関する職務に3年以上携わっている者
(医療機関、介護・福祉施設、行政機関、民間企業等の法人形態は問わない)

経済的サポート

専門実践教育訓練指定講座

本プログラムは、令和4年4月1日より厚生労働省の教育訓練給付制度における専門実践教育訓練指定講座として指定されています。教育訓練給付金とは、働く方々の主体的な能力開発やキャリア形成を支援し、雇用の安定と就職の促進を図ることを目的として、厚生労働大臣が指定する教育訓練を修了した際に、教育訓練経費の一部が支給されるものです。支給要件を満たす方が所定の申請を行うことで、本学に支払う教育訓練経費(受講料自己負担額)の50%から70%に相当する額がハローワークから支給されます。

教育訓練給付制度 | 厚生労働省のホームページ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/kyouiku.html

さらに学びを深めるために

国際マネジメント研究科 ソーシャル・イノベーションMBA(SIMBA)との連携

本プログラムと国際マネジメント研究科は密に連携し、大学院科目の開放や指導などを行ってまいりました。本プログラム履修生とのディスカッションはとても刺激的であり、履修生同士や講師との間で、現場の課題と経営学の理論・知見をぶつけ合い、考え抜く貴重な時間になっています。また、このような経験を経た卒業生が、ソーシャル・イノベーションMBA(SIMBA、詳細は下記参照)に進学され、さらなる学修、探求を深められています。医療経営の重要性が年々高まるなかで、本プログラムとSIMBAが連携し、多くの卒業生を輩出していること、さらに教職員間が学部の垣根を超えて様々な取組に挑戦していることは、他大学にない大きな特長です。本プログラムを修了した直後でも、あるいはひと段落してからでも、もう少し学びたい、研究を発展させたいと思ったら、ぜひSIMBAへの進学をご検討ください。心よりお待ちしております。

SIMBA:https://www.yokohama-cu.ac.jp/int_manage/program/simba.html



横浜市立大学大学院
国際マネジメント研究科准教授
SIMBA担当教員

原 広司

プログラムの内容(令和8年度予定)

必修科目内容

ケーススタディ

24時間

民間企業や医療機関等の実際のケースをもとに病院経営の実務家教員によるケースディスカッションとグループワークを行い、より深い理解や応用力を養います。また先進的な取り組みなどを学ぶ機会(本学大学院MBAプログラムとの合同シンポジウム)を提供します。



特別研究

40時間

各自のテーマ設定から、データ収集・分析・中間発表・レポート作成まで、メンターとして医療コンサルタントでもあるコーディネータがサポートします。履修生は自身の抱える経営課題をテーマに、研究活動を通じて実現可能な解決策を検討してレポートを作成します。また、履修生同士の発表会や、本プログラム修了生による成果発表会(ソーシャル・イノベーション研究会)への参加を通じて意見交換を行い、相互理解を深めます。



ビジネス・マネジメント

22.5時間

マーケティング、人的資源管理、ゲーム理論、経営戦略論、財務会計などビジネス・マネジメントに関する諸理論・フレームワークを理解・習得し、課題発見と課題解決の提示を行う力を養う。本学教員や外部講師によるオムニバス形式で学ぶ。

医療イノベーション経営

22.5時間

医療機関・介護施設はとかく「個別最適」に陥りがちだが、経営・マネジメントの観点を駆使することで「全体最適」に導くことが可能になると考える。マクロからミクロまで幅広く医療経営について学ぶ。

選択必修科目(指定科目群から1科目選択必修)

選択科目(指定科目群から1科目選択可)

① 公共マネジメント

22.5時間

公共経営の中心的概念であるNPM(ニュー・パブリック・マネジメント)を理解することを目的とし、公共経営の概念を用いて社会課題解決の方策を提案できる人材育成を目指す。

② サービス・サイエンス/ サービス・マネジメント

22.5時間

サービスに焦点を当てた文理融合的な学問領域であるサービス・サイエンスを扱い、その知見をサービスの企画・実践あるいは自身の研究に活用できるようにすることを目的とする。

③ ヘルスケア・エコノミクス/ ヘルスケア・ポリシー

22.5時間

保健・医療・介護の課題に対する経済学的なアプローチへを理解し、それに基づいて解決策を提言できることを目標とする。経済学の理論と実証研究をバランス良く学ぶ。

④ ソーシャル・イノベーション

22.5時間

組織を取り巻く社会的な課題について理解を深め、行動経済学やソーシャル・マーケティング等の知見を活用しながら、組織や社会全体にイノベーションをもたらす課題解決型人材の育成を目指す。

⑤ 臨床統計学

22.5時間

臨床試験でプロトコルを作成する上で必要な統計的手法を学ぶ。臨床研究で実際に用いられている統計手法(検定方法や帰帰モデル)を習得する。解析ソフトを用いて講義で得た知識を実際のデータ解析に活用するための実習を行う。

⑥ 医学教育学

22.5時間

人材育成のための能動的教育手法の実践と専門職連携の概念と教育手法の習得を目的として、イントロダクションの講義後、履修者と共にディスカッションを行う。

⑦ 看護管理学

22.5時間

看護管理の理論と方法を概観し、保健・医療・福祉システムの変化における看護管理上の課題を明確にし、看護管理者、CNSとして効果的に組織をマネジメントするために必要な知識を学習する。

⑧ 看護政策学

22.5時間

看護の質向上に向けて求められる看護政策、制度の理念、機能、意義ならびにその展開に必要な知識と技法について今日の社会的背景も踏まえて学ぶ。

修了授業時間 131.5時間

Pick UP



Brush up Program
for professional

本プログラムは、文部科学省の職業実践力育成プログラム

(BP= Brush up Program for professional)に認定されています。

職業実践力育成プログラム認定制度とは、大学・大学院等におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」(BP)として文部科学大臣が認定するものです。

本プログラムは、令和4年4月1日より職業実践力育成プログラム(BP)に認定されています。

履修生の声 令和7年度履修生

(五十音順、敬称略)



横浜市立大学附属
市民総合医療センター
救急(ER)部 部長

嶽間澤 昌泰

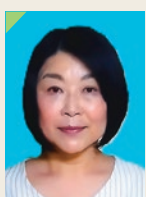
ER部門長として現場に立つ中で、診療の質だけでなく、人材配置や病床運用、地域連携といった医療の仕組みを理解しなければ、本質的な改善は難しいと感じ、本プログラムに応募しました。ケース討論や経営分析、政策講義を通じ、医療を組織・制度の視点から再考する思考を得られ、期待を上回る大きな学びとなりました。本プログラムは、医療を現場の努力に留めず、より高い視座で捉え直す絶好の機会だと確信しています。



横浜市立大学附属病院
総務課
臨床工学担当

鎌田 文哉

臨床工学技士として業務に携わる中で、医療現場を支える一方、病院の収益構造や経営の視点について十分な理解ができていないことに課題を感じ、本プログラムに応募しました。オムニバス形式で多角的に経営・マネジメントを学ぶことで視野が広がり、日常業務においても新たな「気づき」を得る機会が増えました。今後は、得られた知識を現場に還元し、経営の視点を持った臨床工学技士として病院運営に貢献していきたいと考えています。本プログラムは、医療に携わるすべての職種にとって大きな学びとなる内容であり、ぜひ多くの方に受講をお勧めしたいです。



東海大学医学部付属病院
看護部

小林 倫子

私は「病院経営」と「地域医療への貢献」に関心を持ち、本プログラムを履修しました。「政策」「地域医療」「経営」という高い視座から医療を捉え直す学びは非常に刺激的で、日常業務では得難い視点を得ることができました。多様な背景を持つ履修生との議論や特別研究への取り組みを通じて、思考の幅が広がったと感じています。ここで得られた知識と経験は、私にとってかけがえのない財産になりました。少しでも関心がある方には、ぜひ履修をおすすめします。履修後には、自身の変化を必ず実感できるはずですよ。



横浜市立大学
ICT推進課長 兼
附属病院/
附属市民総合医療センター
システム担当課長

高橋 健太郎

附属2病棟の電子カルテ統合事業に臨むにあたり、体系的に医療経営・政策を学びたいと考え応募しました。本プログラムは、講師陣も受講者も多彩です。講義からの学びもさることながら、学内外で様々なキャリアを重ねた皆様とのディスカッションからも多くを学びました。本プログラムに参加しなければお目にかかる機会が得られなかった方々との濃密な議論は、私にとって大変貴重な経験でした。ここで得た知識と視点を、附属2病棟の経営改善に活かしていきたいと思っております。受講を迷われている方は、ぜひ。得られるものは、想像以上ですよ。



名古屋市立大学大学院
医学研究科 加齢・
環境皮膚科学分野主任教授
名古屋市立大学 副学長
名古屋市立大学病院 副病院長
(救急災害医療センター長)

森田 明理

本プログラムに応募した理由は、臨床や研究の経験を、組織運営や医療経営という視点から再構造化したいと考えたからです。講義やケースディスカッションを通じて、多職種協働、政策的思考、データに基づく意思決定の重要性を体系的に学ぶことができました。特に、立場や専門の異なる受講生との議論は、自身の視野を大きく広げる契機となりました。現在は、救急災害医療センターの立ち上げにおいて、学んだ知見を実装する段階にあります。本プログラムは、医療の現場を組織として前進させたい方に強く推薦します。

SIMBA進学者の声

(敬称略)

令和2年に横浜労災病院に赴任し、初めて人や医療資源の管理を含めた医療経営などの知識が診療責任者として足りないことを知りました。そこで令和6年度にYCU医療経営・政策プログラムに参加し、座学のみならず参加者とのディスカッション、さらにはプロフェッショナルの貴重な講演を通して経済学・経営学の基礎を学びました。このプログラムを通じてこれらの学問はエビデンスに基づいた学問であり、今まで学んできたEBM、臨床試験と同じであることに興味を覚えました。また、一部の講義に参加されていたSIMBA4期生からSIMBAについて大変だけど講師の先生方の手厚いフォローが凄いいし、面白いとお聞きし、もう少し深く経済学・経営学を学びたいという気持ちが強くなり、SIMBAへの進学を決めました。

進学して約1年経過し、診療後あるいは週末に授業を受け、課題をこなし、Research Questionを考え、医師1.2年目の頃のような非常に充実した日々を送っております。医療経営・政策プログラムで経済や経営を学問として少しでも興味を持たれた方は進学を考えてみてください。



横浜労災病院
周産期センター長
産婦人科部長

松永 竜也

ソーシャル・イノベーション研究会(旧医療経営・政策研究会)

第21回 ソーシャル・イノベーション研究会

横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科准教授
SIMBA担当教員 佐藤 亨

日 程 令和7年8月3日(日)
開催時間 9:00～12:00
開催形式 みなとみらいサテライトキャンパス+zoom
参加者 47名

- 9:00～ 9:10 開会・事務連絡
- 9:10～ 10:40 「持続的経営を考えた福井県済生会病院の取組み」
齋藤 哲哉 氏(社会福祉法人恩賜財団済生会支部
福井県済生会 事務局長/福井県済生会病院 事務
部長)
- 10:50～ 11:40 「アメリカにおけるコミュニティ・エクセレンスの展開」
佐藤 亨(横浜市立大学 国際商学部・国際マネジメント
研究科 准教授)
- 11:40～ 12:00 総括&ディスカッション

第22回 ソーシャル・イノベーション研究会

横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科准教授
SIMBA担当教員 原 広司

日 程 令和8年2月14日(土)
開催時間 9:00～12:00
開催形式 みなとみらいサテライトキャンパス+zoom
参加者 47名(プログラム履修生および修了生限定開催)

- 9:00～ 12:00 「医療イノベーション経営 マネジメント編」
田中 利樹氏(ハイズ株式会社 代表取締役社長)



公開シンポジウム

公開シンポジウム 「医療・ヘルスケア事業の課題と医療者との協働」～これからのヘルスケアの役割とは～

日 程 令和7年8月30日(土)
開催時間 9:30～12:00
開催形式 みなとみらいサテライトキャンパス+zoom
参加者 52名

モデレーター

後藤 隆久
横浜市立大学附属病院 前病院院長
医学部麻酔科学 主任教授

原 広司

横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科
准教授 SIMBA担当教員

講演者

小林雄祐
横浜市立大学共創イノベーションセンター

池田優花氏

株式会社三菱総合研究所

天野達郎氏

一般社団法人ヘルスケアイノベーション協会

特別研究発表会

中間発表会

日 程 令和7年9月7日(日)
開催時間 9:00～14:40
開催形式 zoomオンライン
参加者 履修生21名、担当教員
※学内の希望者に一部公開

- 9:00～ 10:00 発表(学内の希望者に公開)
- 10:10～ 14:30 発表(非公開)
- 14:30～ 14:40 総括&ディスカッション

最終発表会

日 程 令和8年2月8日(日)
開催時間 10:00～16:30
開催形式 zoomオンライン
参加者 履修生21名、次年度履修予定者、担当教員
※学内外の希望者に一部公開

- 10:00～ 11:30 発表(限定公開)
- 12:40～ 16:10 発表(学内外の希望者に一部公開)
- 16:10～ 16:30 総括&ディスカッション

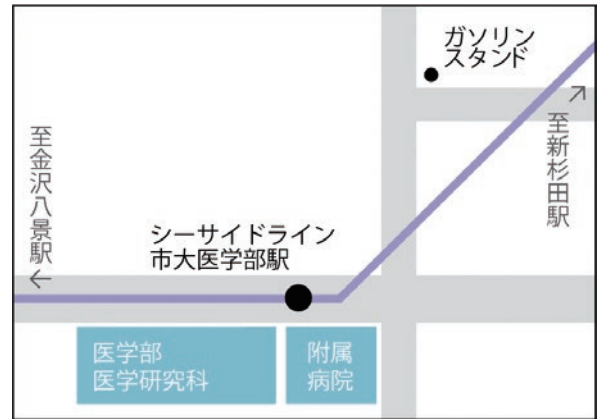
みなとみらいサテライトキャンパス

〒220-8107 横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号
横浜ランドマークタワー7階



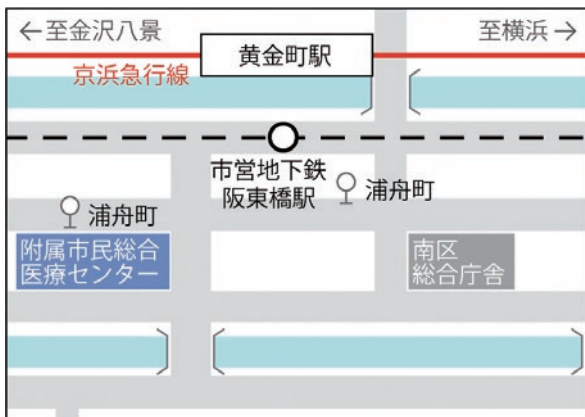
福浦キャンパス・附属病院

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9



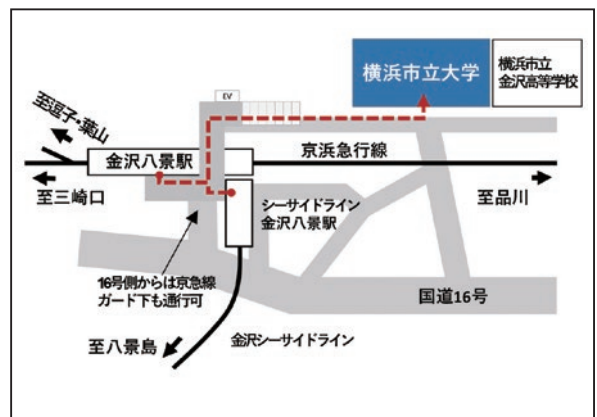
附属市民総合医療センター

〒232-0024 横浜市南区浦舟町4-57



金沢八景キャンパス

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2



<お問い合わせ> 横浜市立大学 YCU医療経営・政策プログラム事務局
E-mail : hp_mgt@yokohama-cu.ac.jp
https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~med_mgt/



横浜市立大学は、様々な取り組みを通じてSDGsの達成を目指します。

